木と建築で創造する共生社会実践研究会

平成 31 年 2 月 18 日

A-WASS 通信 12 号

http://a-wass.org/

会長　長澤　悟　　編集　花岡 崇一

「A-WASS 地域に根差した木の建築研修会」（第５回）
－　伊藤 彰彦氏（久米設計）、高橋 岳志氏（株式会社 gif）講演会 －　報告

平成 31 年 1 月 25 日（土）、兜町偕成ビル（東京都中央区）において、標記の研修会を開催しました。今回の研修会では、新たな木造の計画として株式会社久米設計の伊藤彰彦氏より「都心での大規模耐火木造校舎 有明西学園」の事例を講演いただき、株式会社 gif の髙橋岳志氏より「CLT２階建校舎 郡山ヘアメイクカレッジ」と題して講演いただきました。当研究会会員など 33 名（講師を除く）が参加しました。以下、その概要を報告します。

なお、本研修会は、公益社団法人国土緑化推進機構の平成 30 年度「緑と水の森林ファンド」助成金の支援を受けるとともに、日本建築士会連合会ＣＰＤプログラムに登録されました。

○ 伊藤氏より、オリンピックの会場となり周辺の開発が進む江東区有明で計画された、義務教育学校「有明西学園」の設計内容について紹介された。都心部で実現された「大規模耐火木造校舎」として５階建てで１時間耐火構造となる２階以上を「燃エンウッド」で実現している。校舎全体も、子どもを包み込む木構造校舎として、外観の杉板の軒天上や外壁の人工木から始まり、昇降口の木質化など校舎全体が木の空間となっている。

○ 燃エンウッドは、荷重支持部の上に燃え止まり層があり燃え代層がある三層構成である。燃え止まり層は、荷重支持部と燃え代層を繋ぐ木部と、燃え止まり層として熱容量の大きいモルタルで出来た複合層で出来ている。木が繋がっていることが、他の耐火木材と異なる点である。

○ 東西で 200mを超える校舎は、耐火集成材の柱が連続する「木の回廊」で繋がれている。校舎は南側に普通教室を、北側に特別教室を配置しているが、特別教室前には専用廊下を取るなど動線と共に学年やゾーンのまとまりに配慮されている。

○ 木を用いた空間として「ことばの壁」やサインとしての江戸の色合い「四十八茶百鼠」など細部まで配慮された空間は、大規模木造校舎にとどまらず義務教育学校として小中学生の学びに配慮されている。

○　木の街としての伝統を持つ江東区に誕生した有明西学園は、都心型の木造校舎として細部まで配慮された義務教育学校であると感じられた。

○　高橋氏からは、「郡山ヘアメイクカレッジ」でのＣＬＴ造２階建ての計画が紹介された。長澤会長の教え子として20数年ぶりに再会してのA-WASSでの講演会は高橋氏にとっては緊張する場面であったであろう。

○　1,500 ㎡弱の建物は、500 ㎡以下にＲＣ棟で区切られ「その他の建築物」とすることでＣＬＴ等の木構造を現しとしている。全体の工期が７カ月で建方も２カ月強で行っている。４棟に分かれている建方で１階建て棟の当初は14 日であったが２棟目では７日、その後の２階建て棟は１棟目が 19 日であったものが２棟目では12 日と７日間短縮されている。

○　ＣＬＴを現しで使っている為、木構造だけではなく設備計画にも配慮されている。理容・美容の空間であるため水回りの設備も多く、床面での清掃を考えると吹き出し口も検討できない。木現しに拘った空間づくりの設備面の配慮も紹介された。

○　別棟に関する解釈が得られなかった等、法規的な面は規模にかかわらず苦労されたとのこと。A-WASS でも連携して、木が使いやすい法解釈を得ていくことが必要であると感じた。

文責：A-WASS 賛助会員　日本設計　小泉

A-WASS 第６回通常総会　開催のお知らせ（予告）

下記により第６回通常総会を開催します。詳細は追ってご連絡します。

＜日　時＞　　平成３１年３月１６日（土）　午後
＜場　所＞　　林友ビル会議室（東京都文京区後楽１－７－１２）

会員・会友・賛助会員以外の方も傍聴可能です。ご関心ある方の参加をお待ちしています。

～皆様のご意見を歓迎いたします～
A-WASS 事務局（森の贈り物研究会内）
〒103-0004　東京都中央区東日本橋 3-8-1　　東日本橋コーポラス１F
TEL：03-3249-0421　FAX：03-3249-5133
E-mail：hanaoka@bdvision.co.jp　事務局長 花岡携帯：090-4063-8468